

API® Vision Channel Strip Collection

APIのフラッグシップ・アナログコンソールの象徴的なカラーに、拡張されたEQを搭載。

Stevie WonderのInnervisionsからRadioheadのIn Rainbowsまで、APIのデスクは50年以上に渡って、サウンドにパンチ、存在感、そしてカラーを持つヒットアルバムを形作ってきました。

2013年、Universal AudioはAPIのフラッグシップ・アナログコンソールを芸術的に表現したAPI Vision Channel Stripプラグインをリリースしました。UADハードウェアとApolloインターフェイス用にアップデートされたAPI Vision Channel Strip Collectionでは、切替え可能なEQモジュールと詳細にモデリングされた出力セクションに加えて、APIの象徴的なコンプレッション、ゲーティング、フィルターモジュールなどレコーディングおよびミキシングにとって重要な機能を備えた、より本格的なAPIトーンを提供しています。

新機能:

- APIのフラッグシップ・アナログコンソールのエミュレーションを使用してトラックリング & ミックス
- 新製品560Lシリーズの10バンドグラフィックEQモジュールと従来の550LパラメトリックEQでソースをシェイプ
- 有名な2520 APIオペアンプとカスタムAPIトランスを搭載したAPI 212L Preampで信号にパンチを与え、APIのフラッグシップVisionコンソールの機能を追加
- 235L Gate/Expanderでアンビエンスを再構築し、ダイナミックなエフェクトを提供
- APIの伝説的な225Lコンプレッション回路を使用して、トランジェントを抑え、大胆な新しい質感を作成
- Joe Chiccarelli、Neil Dorfsman、David Isaacなどのアーティスト・プリセットを使ってミックス可能

パラメトリックEQと新しいグラフィックEQを使用してスカルプティング

API Vision Channel Strip Collectionでは、新しいEQ Typeボタンをクリックするだけで、定評のある550L 4バンドパラメトリックEQと、APIの有名な560Lシリーズ10バンド・グラフィックEQを選択することができます。新しい560L EQエミュレーションは、APIが誇るハードウェアの複雑なバンドインタラクション、クリップポイント、音楽的なフィルター・アンプディストーションをキャプチャーしており、ギターのスウィートにシェイプし、ドラムをアグレッシブなサウンドを加え、ボーカルにアナログのパンチを加え、ローエンドを引き締め、非常にタイトなイメージングで表現することができます。

インスタントマジック: UNISONテクノロジーを搭載した212L Preamp

API Vision Channel Strip Collectionは、Unisonマイクプリアンプ・テクノロジーにより、Apolloインターフェイスとの相性がさらに良くなりました。Unisonは、APIの象徴的な212L Preampの重要なインピーダンス、ゲインステージの“スイートスポット”、回路の動作をソフトウェアとApolloのマイクプリアンプ間の双方向のコントロールとコミュニケーションを通じて提供します。さらに、マイク/ラインスイッチ、カットフィルター、-6 dBパッドなど、APIのフラッグシップであるVision Consoleに搭載されているものと同じ機能を備えています。

225Lコンプレッサーによってダイナミクスをシェイプ

225Lは、1つのトラックからミックス全体まで、あらゆる楽器、あらゆるジャンルで威力を発揮する、個性豊かな万能コンプレッサーです。さらに、“New”と“Old”の2つの機能を使い分けることで、マイルドなものからシリアスなものまで、2種類の素晴らしいコンプレッションを得ることができます。

APIのゲート/エクスパンダーやフィルターをクリエイティブに使用

超高速の235L Noise Gate/Expanderは、キックドラムやベースシンセなどの個々のソースのアンビエンスやアタックを簡単にシェイプすることができ、ドラムキットやギターアンプのノイズを抑えることができます。また、パッシブでスイープ可能な215Lのハイ/ロー・パスフィルターは、広い範囲のEQ設定に適しており、ソースのオリジナルトーンを残したまま加工することができます。



API Vision Channel Strip (左) と API Vision Channel Strip Legacy (右)

操作について

API Vision Channel Strip Collectionプラグイン

API Vision Channel Strip Collectionは、API Vision ChannelStripとAPI Vision Channel Strip Legacyという2種類のプラグインで構成されています。これら2つのプラグインのコントロールはほぼ同じですがいくつかの違いについて以下に記載されています。

API Vision Channel Strip

アップデートされたAPI Vision Channel Stripには、オリジナルのAPI Vision Channel Strip Legacyのすべての機能が含まれており、加えて以下の追加機能と機能拡張があります。:

212L Preamp

- 独立したマイク/ライン・ゲインコントロール
- マイク/ライン入力用の独立したPAD値
- ローカット・ランブルフィルター

EQ

- 選択可能な550L、または560Lモジュール

その他

- チャンネルアウトプットフェーダーのモデリング
- アウトプットバッファアンプのクリッピングをモデリング

注: 上記の機能は、API Vision Channel Strip Legacyでは使用できません。

API Vision Channel Strip Legacy

オリジナルのAPI Vision Channel Strip Legacyは、アップデートされたAPI Vision ChannelStripのほとんどの機能とサウンドを提供します。しかし、アウトプットフェーダーとアンプのクリッピングはモデリングされておらず、560L EQが含まれていないため、レガシーバージョンでは色付けの少ないサウンドが提供され、UAD DSPの使用量も少なくなります。

API Vision Channel Strip Legacyは、グローバルコントロールセクションのLEGACYバッジと出力ノブ(フェーダーではない)によって、アップデートバージョンと区別することができます。

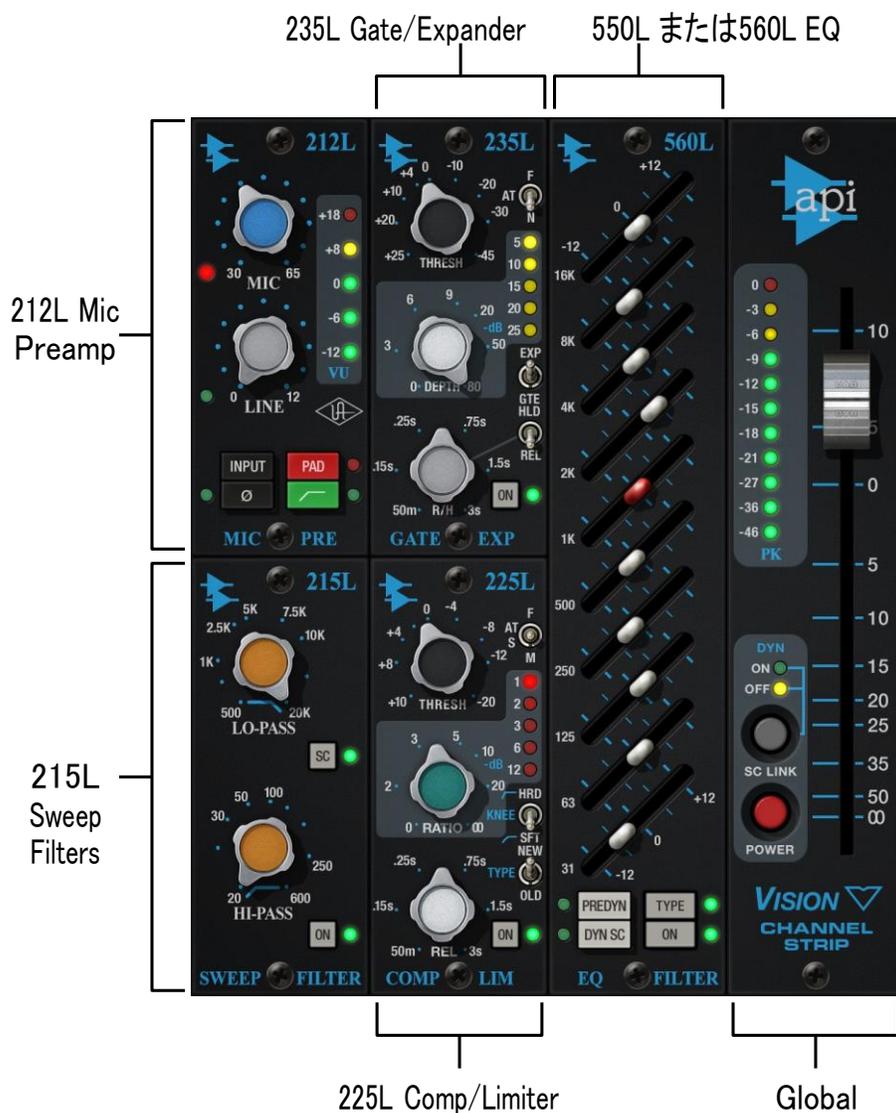


API Vision Channel Strip (左)とAPI Vision Channel Strip Legacy(右)の一部

モジュラー設計

API Vision Console ChannelStripプラグインは、オリジナルのハードウェアと同様にモジュラー設計になっています。各モジュールは異なる信号処理機能をコントロールし、関連するコントロールは各モジュール内にグルーピングされます。次のモジュールは、API VisionConsoleチャンネルストリップに含まれています。:

- 212L Microphone Preamplifier
- 215L High/Low Sweep Filters
- 235L Gate/Expander
- 225L Compressor/Limiter
- 550L Four-Band Equalizer
- 560L Ten-Band Graphic Equalizer (Legacyでは使用出来ません)



チャンネルストリップ・モジュール

セレクトابلEQ

API Vision Channel Strip

EQモジュールのTYPEボタンで、550Lと560Lのイコライザーを切り替えることができます。このマニュアルでは、“EQ”はAPI Vision Console Channel Stripの550L/560L EQモジュールを表しています。

このプラグインは、両方のEQモジュールの現在の設定を保存するので、両方のEQタイプを比較したり、クリエイティブな使い方が可能です。

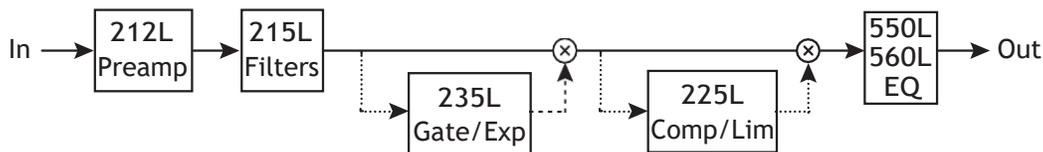
注: API Vision Channel Strip Legacyでは560L EQモジュールは使用できません。

API Vision Channel Strip Legacy

このマニュアルでは、“EQ”は、API Vision Console Channel Strip Legacyの550L EQモジュールを表しています。560L EQモジュールは、API Vision Channel Strip Legacyでは使用できません。

シグナルフロー

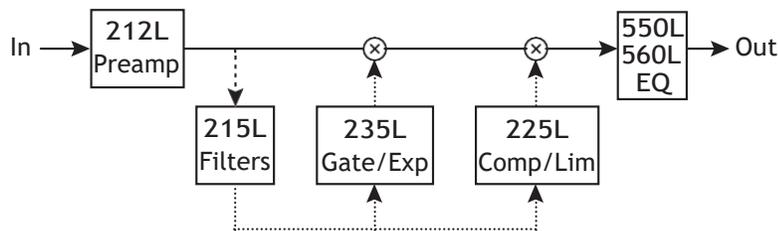
プラグイン内のデフォルトのシグナルフロールーティングをシンプルにして示すと、以下の図のようになります。オーディオパスは実線で、235Lと225Lのダイナミクスモジュールのサイドチェーン・コントロールキーは破線で示されています。



デフォルトのAPI Visionシグナルフロー

プラグインのオプションでシグナルフローを変えることができます。EQモジュールはPREDYN(プリダイナミクス)ボタンを使ってダイナミクスモジュールの前に配置することができ、スweepフィルターやEQは、モジュールのSC(サイドチェーン)ボタンを使って、オーディオパスからダイナミクスのサイドチェーンパスに移動させることができます。

ダイナミクスモジュールのサイドチェーンは、デフォルトでは上図のように直列になっています。しかし、スweepフィルターやEQをSCボタンでサイドチェーンに移動させると、215L SCを有効にした下の図のように、ダイナミクスモジュールのサイドチェーンの入力はパラレルになります。



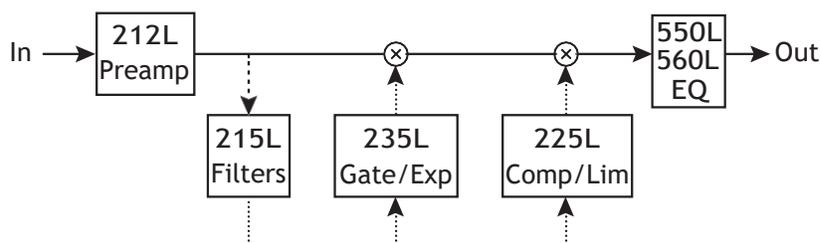
S 215LSCが有効になっているパラレルサイドチェーンインプットを示すシグナルフロー

215L サイドチェイン(SC)

215LモジュールのSCボタンは、スweepフィルターをダイナミクスプロセッシング・サイドチェインにルーティングします。SCボタンまたはそのLEDをクリックして、設定を切り替えることができます。デフォルト値はオフです。

215Lサイドチェインがアクティブな場合、215Lモジュールから出力された信号はオーディオパスから取り除かれ、代わりに下図のように235Lと225Lのダイナミクスモジュールを平行にコントロールするようにルーティングされます。215Lサイドチェインのキーを聞くには、215L SCをオフにするだけで、イコライズされた信号を聞くことができます。

注: 215Lサイドチェインが機能するためには、215Lモジュールが有効になっている必要があります。



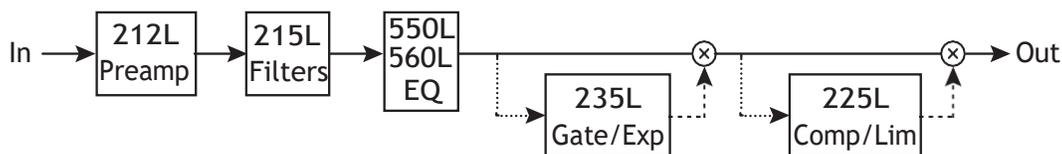
215LスweepフィルターSCをアクティブにした場合のシグナルフロー

EQ プリダイナミクス(PREDYN)

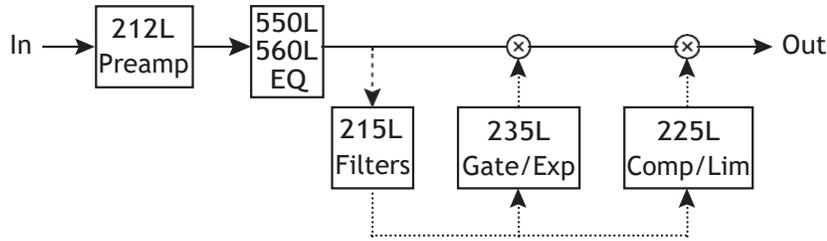
EQモジュールのPREDYNボタン(Pre-Dynamics)は、EQを再ルーティングします。デフォルトでは、オーディオ信号はダイナミクス処理後にEQにルーティングされますが、PREDYNがオンになっている場合、このルーティングは変更され、EQがダイナミクスモジュールの前にルーティングされます。

PREDYNがアクティブな場合、215LモジュールのSC機能の状態に関係なく、ダイナミクスサイドチェインは常にEQモジュールの後に配置されます。PREDYNボタンの効果を下の図に示します。

注: EQのDYN SCボタンがアクティブな場合、PREDYNは効果がありません。



PREDYNは、EQをダイナミクスモジュールの前にルーティングします

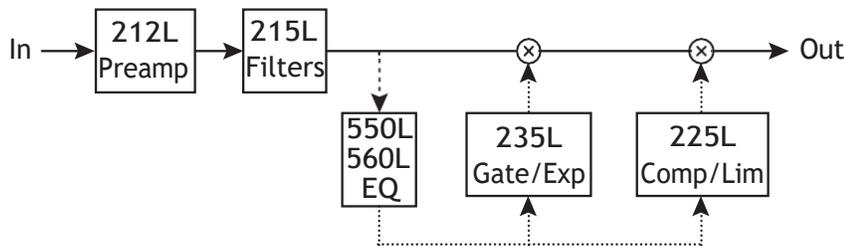


*PREDYN*がアクティブな場合、EQは常にサイドチェインタップの前にあります

EQ ダイナミクスサイドチェーン (DYN SC)

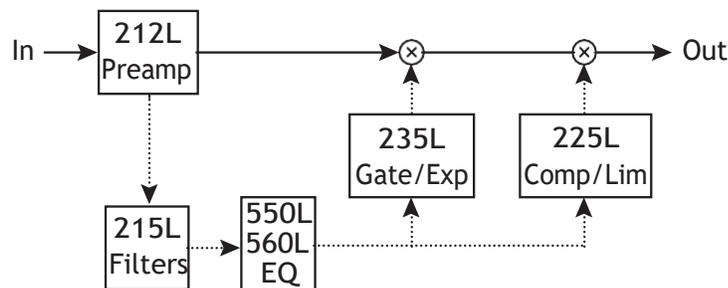
EQモジュールのDYN SCボタンは、EQをダイナミクス処理サイドチェーンにルーティングします。EQサイドチェーンがアクティブな場合 (DYN SC LEDが点灯している場合)、EQモジュールからの信号出力はオーディオパスから取り除かれ、235Lおよび225Lダイナミクスモジュールをコントロールするためにルーティングされます。

注: API Vision Console Channel Strip Legacyでは、このボタンにはSCというラベルが付いています。



EQSC をアクティブにしたシグナルフロー

EQモジュールと215Lモジュールの両方をダイナミクスサイドチェーンに同時にルーティングすることが可能です。この場合、以下に示すように、215LはサイドチェーンパスのEQに先行します。



215LモジュールとEQモジュールの両方がSCでアクティブになっているシグナルフロー

表示される値

ノブの設定は、インターフェイスのシルクスクリーンに書かれているナンバーが実際のパラメーター値と一致しない場合があります。たとえば、215L Sweep Filtersモジュールでは、インターフェイスに表示される最大値は20kHzです。ただし、ノブが最大のときの実際の値は40kHzです。

この挙動は、正確にモデリングされたオリジナルのハードウェアと同様です。プラグインをパラメーターリストモード(コントロールおよび/またはオートメーションビュー)で表示すると、実際のパラメーター値が表示されます。

アーティストプリセット

API Vision Console Channel Stripプラグインには、著名なUniversal Audioアーティストが作成したプリセットが含まれています。一部のアーティストプリセットはDAWの内部ファクトリーバンクにあり、プラグインホストアプリケーションのプリセットメニューからアクセスできます。拡張アーティストプリセットは、UADインストーラーによってディスクにコピーされます。拡張アーティストプリセットには、ホストDAWアプリケーションのプリセットセレクター、UADツールバーの[設定]メニュー、またはUAオーディオインターフェイスのConsoleのプリセットマネージャーからアクセスすることができます。

Ann Mincieli	Jeff Balding	Nathan Feler
Brendan Morawski	John Paterno	Sage Skolfield
Butch Walker	Kez Khou	Sean Solymar
Dave Isaac	Michael Ilbert	Tommy Rush
Ian Boxill	Mike Dean	Tony Platt

API Vision Channel StripCollectionにプリセットを提供したアーティスト





Unison™ によるインタラクション

API Vision Channel Strip Collectionプラグインは、UniversalAudioのApolloオーディオインターフェイスのマイクプリアンプ・ハードウェアと統合するためのUnisonテクノロジーを採用しています。Unison対応のインターフェイスを使用すると、超クリアなマイクプリアンプは、エミュレートされたプリアンプの独自のサウンド、入力特性、機能のすべてを継承します。

注: Unisonは、プラグインがApolloのコンソールまたはLUNAアプリケーション内の専用のUNISONインサートスロットで使用されている場合にのみアクティブになります。詳細については、Apolloソフトウェアマニュアル(ラックマウントおよびデスクトップモデルの場合)、Apollo SOLOマニュアル、またはArrowマニュアルのUnisonの章を参照してください。

Unisonを使用すると、ハードウェアプリアンプはモデリングされたプリアンプの物理入力インピーダンスに適応します。UAのクリアなアナログ・アンプリフィケーションと組み合わせることで、プラグインの完全なゲインとトーンレンジをクリーンからクリップまで再現し、その間に幅広い音楽的なスイートスポットも提供します。

リアルなタンデムコントロール

Unisonは、UAオーディオインターフェイスのデジタルコントロールをしているパネルハードウェアとUADプラグインのインターフェイスとの両方を使用して、プラグイン設定をシームレスにインタラクティブコントロールが可能です。すべてのプリアンプ・コントロール(ゲイン、カットフィルター、パッド、フェイズ)をミラーリングし、どちらからもコントロールすることが可能です。プリアンプ・コントロールは、ゲインレベルやクリッピングなどがモデリングしたプリアンプとまったく同じ相互作用で反応します。

ハードウェア・インプットインピーダンス

すべてのApollo マイクプリアンプは、可変インプットインピーダンスを装備しており、Unison プラグインによって、マイクとプリアンプ抵抗の間の相互作用を物理的に切り替えることができます。このインピーダンスの切替えは、物理的にApolloのプリアンプがエミュレートしているユニットのインプットインピーダンスと一致させることができ、マイクのサウンドに大きな影響を与えます。電気的な負荷はA/D変換前の入力で発生するため、オリジナルのハードウェアに忠実に行われます。



タクティカル・ゲインステージング

UAオーディオインターフェイスのプリアンプノブは、ゲインステージモードを使用してUnison プラグイン内のすべてのゲインと使用可能なレベルパラメーターを独立してコントロールすることができます。調整中のゲインステージは、物理的なハードウェアノブを使用してコントロールできるため、ハードウェアのノブからゲインレベルや関連するカラーを調整し、ソフトウェアのインターフェイスに触れることなく正確な物理的に触れてコントロールすることができます。



ユニゾンゲインステージモードのときに表示される、ゲインコントロールの囲う外環

Unisonによるインタラクション

コントロールの説明の中には、“Unisonインタラクション”の見出しで始まり、左側に“Unison”のアイコンが表示されているものもあります。これらのセクションの説明は、プラグインがConsole、またはLUNAアプリケーション内のApollo/Arrowプリアンプチャンネル上の専用UNISONインサートに配置されている場合にのみ適用されます。プラグインが標準インサート(非Unisonインサート)やDAW内で使用する場合、これらの説明は適用されません。

212L マイクプリアンプファイヤー

212L インпутセレクト

INPUTボタンは、マイクとラインの間で使用する入力ゲインノブを切り替えます。ボタンを押して、アクティブな選択を切り替えます。

ヒント: インпутセレクトLED (MIC/LINEゲインノブの左側) をクリックして入力を切り替えることが可能です。

アクティブな設定は、入力のゲインノブ横にあるLEDが点灯することで示されます。マイク入力が入力になると、MICゲインノブの左側にある赤いLEDが点灯し、ライン入力がアクティブになると、LINEゲインノブの左側にある緑色のLEDが点灯します。

注: API Vision Channel Strip Legacyではインпутセレクトを使用することはできません。



Unison インタラクション

ソフトウェアとハードウェアのコントロールはミラーリングされており、プラグインインターフェイス内、Console/ LUNAソフトウェアコントロール、またはApolloのハードウェアボタン (ApolloラックマウントモデルではMIC / LINE、Apollo TwinモデルではINPUT) を使用して変更可能です。

212L マイクゲイン

マイク入力信号に適用されるゲインの量を調整します。使用可能な範囲は30dB～65dBです。デフォルト値は40.5dB (ユニティゲイン) です。

ヒント: マイクゲインをデフォルト値に戻すには、212Lモジュールの上部にあるAPIロゴをクリックしてください。

Unison インタラクション

Apolloのハードウェアプリアンプ・ノブを使用して、インпутセレクトがMicに設定されている場合、またはこのパラメーターがゲインステージ・モードで選択されている場合、このパラメーターを調整できます。

212L ラインゲイン

ライン入力信号に適用されるゲインの量を調整します。使用可能な範囲は0dB～12dBです。デフォルト値は0dB (ユニティゲイン) です。

使用可能なラインゲイン範囲は、API VISION Console専用のライン入力を採用しており、オリジナルの212Lハードウェアモジュールにこの機能はありません。

Unison インタラクション

Apolloのハードウェアプリアンプ・ノブを使用して、インпутセレクトがLineに設定されている場合、またはこのパラメーターがゲインステージ・モードで選択されている場合にこのパラメーターを調整できます。

212L ゲイン(レガシー)

マイクとラインの入力信号に適用されるゲインの量を30dB～65dBの間で調整することができます。デフォルト値は40.5dBです。

オリジナルの212Lハードウェアモジュールはマイクプリアンプのみであるため、プラグインモジュールの入力で信号を-32dB減衰させてラインレベルにしています。

212L パッド

パッドは、プリアンプのゲインレベルが低いときにオーバーロードによる歪みが起きた場合、信号レベルを下げるために使用することができます。赤いLEDが点灯するとPADが作動します。PADボタンまたはLEDをクリックして設定を切り替えます。

Mic パッド

マイク入力でPADを有効にすると、入力信号レベルが-20 dB減衰(低下)します。

Line パッド

ライン入力でPADを有効にすると、入力信号レベルが-6 dB減衰(低下)します。

ラインPADは、API Vision Consoleのライン入力専用機能から採用されたもので、オリジナルの212Lハードウェアモジュールにはありません。

注: API Vision Channel Strip Legacyでは、マイク入力とライン入力の両方を選択した場合、PAD値は-20dBとなります。

Unisonによるインタラクション

- LINE入力を選択されている場合、PADは使用できません。
- ソフトウェアとハードウェアの制御はミラーリングされており、プラグインインターフェイス内、Console/LUNAソフトウェアコントロール、またはApolloのハードウェアボタンで変更することができます。

212L フェイズ

フェイズ(\ominus)ボタンは、信号の極性を反転させます。ボタンの緑のインジケーターが点灯しているときに極性が反転します。ボタンをオフ(消灯)にすると、通常の極性になります。

Unisonによるインタラクション

ソフトウェアとハードウェアのコントロールはミラーリングされており、プラグインインターフェイス内、Console/ LUNAソフトウェアコントロール、またはApolloのハードウェアボタンを使用して変更可能です。

212L カットフィルター

このボタンは、1オクターブあたり6dBのスロープを持つ50Hzのローカットフィルターがオンになります。このランブルフィルターは、API Visionコンソールの専用ライン入力機能から採用されたもので、オリジナルの212Lハードウェアモジュールにはありません。

注: 212L カットフィルターは、API Vision Channel Strip Legacyでは使用できません。

Unisonによるインタラクション

ソフトウェアとハードウェアのコントロールはミラーリングされており、プラグインインターフェイス内、Console/ LUNAソフトウェアコントロール、またはApolloのハードウェアボタンを使用して変更可能です。

212L メーター

LEDラダー式VUメーターは、212Lプリアンプモジュールの出力の信号レベルを表示します。

215L ハイ/ロー・スウィープフィルター

215Lは、低域と高域にそれぞれ1つずつ、2つのスイープ可能なカットフィルターを搭載しています。オリジナルのハードウェアはトランスカップリングで、パッシブフィルター回路設計を採用しており、スムーズな音色を実現しています。

215L ローパス

ローパス(ハイカット)フィルターの周波数レンジは643Hz~40.8kHzです。このフィルターのスロープは、1オクターブあたり6dBです。初期値は40kHzです。

215L ハイパス

ハイパス(ローカット)フィルターの周波数レンジは12Hz~596Hzのです。このフィルターのスロープは、1オクターブあたり12dBです。初期値は12Hzです。



Unisonによるインタラクション(レガシー)

API Vision Channel Strip Legacyでは、Console/LUNAソフトウェアコントロールまたはApolloのハードウェアボタンでプリアンプのローカットフィルターを有効にすると、215Lが有効になります。(API Vision Channel Stripでは、Unisonのローカットフィルターは212Lモジュール内にあります)。

215L SC (ダイナミクスサイドチェイン)

このボタンは、ダイナミック・プロセッサに対する215Lのサイドチェインフィルターを有効にします。SCボタンまたはそのLEDをクリックすると、設定が切り替わります。初期値はオフです。関連情報については、関連する情報は、このマニュアルで前述している“シグナルフロー”を参照してください。

215L オン

215Lモジュールをオンにします。ボタンの緑のインジケーターが点灯すると、フィルターモジュールがオンになります。ONボタンまたはそのLEDをクリックすると、設定が切り替わります。

ヒント: このモジュールがオフの場合、UADのDSP負荷は軽減されます(“UAD Meter & Control Panel”アプリケーションでDSP LoadLockが有効になっている場合を除く)。

235L ゲート/エキスパンダー

235Lゲート/エキスパンダー・モジュールは、ゲートモードまたはエキスパンダーモードで動作します。どちらのモードでも、2段階のアタックスピードと連続可変のリリースタイムが利用できます。

235L スレッシュホールド

スレッシュホールドは、エキスパンションまたはゲートが発生する入力レベルを決定します。設定可能な範囲は、+25 dB ~ -47 dBです。デフォルトでは-47dBです。

注: API Vision Channel Strip Legacyでの、デフォルト値は0 dBです。

スレッシュホールド以下の信号は、モジュールによって処理されます。スレッシュホールド以上の信号には影響を与えません。このコントロールを反時計回りに回転させると、ゲート/エキスパンダー効果が高まります。

ヒント: スレッシュホールドを0dBに戻すには、ラベル“0”をクリックしてください。



235L デプス

デプスはゲート/エキスパンションの量、より技術的にいうとゲート/エキスパンションされた信号とされていない信号のゲインの差をコントロールします。値が大きいほど、スレッシュホールド以下の信号の減衰量が大きくなります。ゼロに設定すると、ゲートやエキスパンションは発生しません。設定可能な範囲は、0 dB ~ -80 dB です。デフォルト値は-80dBです。

スケールコントロール

デプスコントロールの全範囲は-80dBなのですが、スケールは回転の前半で拡張されるため、0~-9 dBを使用して、微妙で検出できないゲーティングを微調整できます。回転の後半では、より大幅なノイズリダクションを行うために-10~-80dBで調整することができます。

235L アタック

この2ポジションスイッチは、信号がスレッシュホールドを超えたときのゲーティング/エキスパンションが開始する時間を決定します。ノーマル(25ミリ秒)とファースト(100マイクロ秒)の2種類があります。初期設定はノーマルです。

235L リリース/ホールド・ノブ

リリース/ホールド (R/H) ノブの機能は、リリース/ホールド (Rel/Hld) スイッチの設定に依存します。両方のスイッチの設定で、ノブの使用可能な範囲は50ミリ秒から3秒です。デフォルト値は0.5秒です。

注: ホールドモードは、235Lモジュールがゲート/エキスパンダー・スイッチでゲートモードに設定されている場合のみ有効です。

リリース

入力信号がスレッシュホールドレベルを下回り、リリース/ホールド・スイッチがリリースに設定されている場合、このノブは、信号がデプスレベルにまで減衰するまでの時間を設定します。

リリースタイムを遅くすることで、信号がスレッシュホールドを下回ったときに発生するトランジションをスムーズにすることができます。これは、ピークが頻繁に発生するソースに特に有効です。

速いリリースタイムは、通常、パーカッションやその他の非常に速いディケイを持つ楽器にのみ適しています。それ以外の素材で高速の設定を行うと、望ましくない結果になることがあります。

ホールド

リリース/ホールド・スイッチがホールドに設定されている場合、入力信号がスレッシュホールドレベルを下回ったときに、信号がデプスレベルに戻るまでの通常レベルでの保持される時間を設定します。

注: ホールドに設定すると、リリースタイムは100ミリ秒に固定されます。

235L リリース/ホールド・スイッチ

この2ポジションスイッチ(REL/HLD)は、235Lモジュールがゲート/エキスパンダースイッチでゲートモードに設定されているときに、リリース/ホールドノブの動作を決定します。デフォルト値はリリースです。

注: このスイッチは、モジュールがエキスパンダーモードになっているときは、リリースの位置に固定されます(エキスパンダーモードではホールドモードは使用できません)

235L ゲート/エキスパンダー・スイッチ

このスイッチ(GTE/EXP)は、モジュールのゲートモードとエキスパンダーモードを切り替えます。初期値はエキスパンダーです。

GTE - ゲートモードに設定すると、スレッシュホールド以下の信号はデプスの量だけ減衰します。

EXP - エキスパンダーモードに設定すると、ゲートは固定の1:2のレシオで下方方向にエキスパンドし、ゲインの減少量はデプスコントロールで決定します。エキスパンションにより、「スレッシュホールド値以下」のニュアンスを損なうことなく、信号をフルシグナルレベルまで“あまり気付かれずに”上げることができます。

235L メーター

235Lモジュールで発生しているゲインアッテネーション(下方へのエキスパンション)量をdBで表示します。

235L オン

235Lモジュールがオンになります。ボタンの緑のインジケータが点灯すると、モジュールがオンになっています。ONボタンまたはそのLEDをクリックすると、設定が切り替わります。

ヒント: このモジュールがオフの場合、UADのDSP負荷は軽減されます(“UAD Meter & Control Panel”アプリケーションでDSP LoadLockが有効になっている場合を除く)。

225L コンプレッサー/リミッター

225L Compressor/Limiterは、1:1(コンプレッションなし)から ∞ :1(リミッター)の間で連続可変のレシオを提供します。3段階のアタック・スピードと連続可変のリリースタイムが用意されています。また、ハード/ソフトニーの設定や、ユニークなニュー/オールドの設定もモジュール内に用意されています。

225L スレッシュホールド

スレッシュホールドは、コンプレッションを開始する入力レベルを設定します。使用可能な範囲は、+13 dBから-18 dBです。デフォルト値は13dBです。

注: API Vision Channel Strip Legacyでは、デフォルト値は0 dBです。

スレッシュホールドを超えた信号は、レシオで設定した値で処理されます。スレッシュホールド以下の信号には影響を与えません。このコントロールを時計回りに回すと、コンプレッション効果が大きくなります。

注: 225L compressorは、コンプレッション時に減少したレベルを補うために、メイクアップゲインを自動的に増加させます(別名:レシプロ・ゲイン)。しかし、オリジナルのハードウェアと同様に、プラグインの補正されたメイクアップゲインレベルは完全にリニアではありません。

225L レシオ

レシオは、スレッシュホールドを超えた信号に適用されるゲインリダクションの量を決定します。例えば、値が2(2:1のレシオで表現)の場合、スレッシュホールド以上の信号レベルが半分になり、20dBの入力信号レベルが10dBに低減されます。

値が1の場合、ゲインリダクションは行われません。コントロールが最大(∞)の場合、比率は実質的無限大(∞)対1となり、リミッティング効果が得られます。設定可能な範囲は1対1から無限大です。デフォルト値は4:1です。

225L アタック

コンプレッサーのアタックタイムを設定する3ポジションのスイッチです。設定可能な値は、ファースト(2ミリ秒)、ミディアム(18ミリ秒)、スロー(75ミリ秒)です。デフォルト値はミディアムです。

225L リリース

リリースは、入力信号がスレッシュホールドレベルを下回ったときに、処理を停止するまでの時間を設定します。設定可能な範囲は50ミリ秒~3秒です。デフォルト値は0.5秒です。

注: 実際のリリース時間はプログラムによって異なります。



リリースタイムを遅く設定すると、信号がスレッシュホールド以下になったときに発生するトランジションをスムーズにすることができ、ピークが頻繁に起こる素材には特に有効です。しかし、リリースタイムが長すぎると、信号が大きい音声部分のコンプレッションが、信号が小さい音声部分にまで及んでしまうことがあります。

速いリリースタイムでは、通常、パーカッションやその他の非常に速いディケイを持つ楽器にのみ適しています。それ以外の音源で速いリリースタイムの設定を行うと、望ましくない結果になることがあります。

225L ニー

コンプレッサー／リミッターのニー(オンセット)特性を、この2ポジションのスイッチでソフト(SFT)またはハード(HRD)に設定できます。初期値はハードです。

ソフトニーはより微妙なコンプレッションを提供し、非常にナチュラルでコンプレッションの少ないサウンドをもたらします。ハードニーは、より厳しいリミッティング効果を持つ、より典型的で鋭角なニーのコンプレッションをもたらします。

225L タイプ

タイプコントロールは、225L compressorのコントロールサイドチェイン信号を、フィードバック(OLD)またはフィードフォワード(NEW)設計のいずれかを使用するように切り替え、2種類のゲインリダクションを提供します。デフォルト値はOldです。

コンプレッサーには通常、フィードバックまたはフィードフォワード設計に基づくサイドチェインコントロール信号があります。新しいフィードフォワードゲインリダクションは、サイドチェイン回路にRMS検出器を使用する新しいVCAタイプのコンプレッサーに典型的なものです。OLDフィードバック方式は、ほとんどの従来のコンプレッサーがサイドチェイン回路に使用する方法です。

注: オリジナルのハードウェアとは異なり、215LおよびEQモジュールを介したサイドチェイン処理は、このスイッチをOLD位置にして実行できます(ハードウェアはフィードバックコンプレッションを伴うサイドチェインフィルタリングを使用することはできません)。

225L メーター

このメーターは、225Lモジュールで発生するゲインリダクション量をdB単位で表示します。

225L オン

このボタンは225Lモジュールをオンにします。ボタンの緑色のインジケーターが点灯している場合、モジュールはオンです。オンボタンまたはそのLEDをクリックして、設定を切り替えることができます。

ヒント: このモジュールがオフの場合、UADのDSP負荷は軽減されます(“UAD Meter & Control Panel”アプリケーションでDSP LoadLockが有効になっている場合を除く)。

550L 4バンドイコライザー

550L EQは、高周波数帯(HF)、高中域周波数帯(HMF)、低中域周波数帯(LMF)、および低周波数帯(LF)の4つの周波数帯域に分割されます。

550Lは、APIの“プロポーションナルQ”を備えており、バンドゲインが増えるにつれてフィルターの帯域幅を継続的に狭め、(APIで述べられているように)“音響的に優れたイコライゼーションを生成するためのシンプルな方法”を提供します。ブーストとカットのキャラクターは同じであり、必要に応じて前のアクションを元に戻すことができます。

バンドコントロール

4つのEQバンド(HF / HMF / LMF / LF)は、デュアル同軸ロータリースイッチによってコントロールします。内側のノブはバンド周波数(青いテキストの値)をコントロールし、外側のノブはバンドゲイン(白いテキストの値)をコントロールします。これらのコントロールで使用可能な値を以下の表に示します。

550L 周波数&ゲイン値

バンド	周波数値	ゲイン (±dB)
高周波数域 (HF)	20, 15, 12.5, 10, 7, 5, 2.5 (kHz)	0
高中周波数域 (HMF)	12.5, 10, 8, 5, 3, 1.5 (kHz), 800 (Hz)	2
中低周波数域 (LMF)	1000, 700, 500, 240, 180, 150, 75 (Hz)	4
低周波数域 (LF)	400, 300, 200, 100, 50, 40, 30 (Hz)	6
		9
		12

太字で表示されている値はデフォルト値です。

フリーケンシー(周波数)

周波数は、バンドがピークモード(すべてのバンド)にあるときのバンドの中心周波数と、バンドがシェルフモードにあるときのカットオフ周波数(HF / LFバンドでのみ使用可能)を決定します。帯域の周波数は、次のいずれかの方法を使用して設定できます。:

- 内側の同軸ノブを目的の値までドラッグする
- 内側の同軸ノブにカーソルを合わせ、マウスのスクロールホイールを使用する
- 周波数値ラベルを直接クリックして、その値に切り替える
- バンドラベル(HF / HMF / LMF / LF)をクリックして、使用可能な値を循環させる (Shiftキーを押しながらクリックすると逆方向に循環します)



ゲイン

各バンドのゲインは、次のいずれかの方法を使用して設定することができます。:

- 外側の同軸ノブハンドルを目的の値までドラッグする
- 値を増減させるには、テキストラベル“+”または“-”をクリックする
- 外側の同軸ノブにカーソルを合わせ、マウスのスクロールホイールを使用する

ピーク/シェルフ・スイッチ

HFバンドとLFバンドは、初期設定ではシェルフモードになっています(スイッチは“下”の位置)。そのバンドのピーク/シェルフ・スイッチを押すと(スイッチが“上”の位置)、そのバンドはピークモードになります。

PREDYN (EQ プリダイナミクス)

デフォルトでは、オーディオ信号はダイナミクス処理の後にEQにルーティングされますが、PREDYNがオンである場合(緑のLEDが点灯している場合)、このルーティングは入れ替わり、EQがダイナミクスモジュールの前にルーティングされます。関連する情報は、このマニュアルで前述している“シグナルフロー”を参照してください。

注: PREDYNは、EQの DYN SC ボタンがアクティブな時には効果はありません。

DYN SC (ダイナミクスサイドチェイン)

DYN SCがアクティブなとき(緑のLEDが点灯しているとき)、EQモジュールから出力された信号はオーディオパスから外れ、代わりに235Lと225Lのダイナミクスモジュールをコントロールするようにルーティングされます。関連する情報は、関連する情報は、このマニュアルで前述している“シグナルフロー”を参照してください。

注: API Vision Console Channel Strip Legacyでは、このボタンは“SC”と表示されています。

EQ タイプ

注: このコントロールは、API Vision Channel Strip Legacyでは使用できません。

TYPE ボタンの緑の LED が消灯しているときは、550L EQ モジュールがアクティブになっています。TYPE ボタンまたはそのLEDをクリックして、560L EQ モジュールに切り替えることができます。

ヒント: プラグインは、両方のEQモジュールの現在の設定を保存するので、両方のEQタイプを比較する場合などに便利です。

EQ オン

このボタンは、EQ モジュールをアクティブにします。ボタンの緑のインジケータが点灯すると、モジュールがアクティブになります。ON ボタンまたはその LED をクリックすると、設定が切り替わります。

ヒント: このモジュールがオフの場合、UADのDSP負荷は軽減されます(UAD Meter & Control PanelアプリケーションでDSP LoadLockがオンみになっている場合を除く)。

560L 10バンドイコライザー

注: このモジュールは、API Vision Channel Strip Legacyでは使用できません。

10本のグラフィックEQバンドを備えた560 L EQは、精巧なミックスを行う際に理想的なイコライザーです。API独自の“Proportional Q”は、低いブースト/カットレベルで帯域幅を直感的に広げ、高いレベルで帯域幅を狭め、ミックスの正確なバンドを音楽的にコントロールすることができます。

注: オリジナルの560Lハードウェアと同様に、すべてのゲインスライダーが0dBに設定されていても、信号は約0.4dBブーストされています。

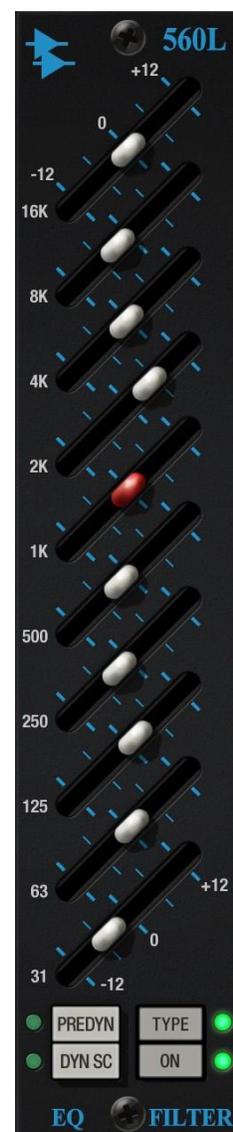
ゲインスライダー

10個のスライダーは、それぞれ1つの周波数帯のゲインをコントロールします。各バンドは、最大で±12dBまでの周波数をブーストまたはカットすることができます。各バンドの中心周波数は以下の通りです。

560L フリーケンシー

31 Hz	1 kHz
63 Hz	2 kHz
125 Hz	4 kHz
250 Hz	8 kHz
500 Hz	16 kHz

ヒント: スライダーを0dBの位置に戻すには、スライダーの周波数テキストラベルをクリックしてください。すべてのスライダーを0dBに戻すには、スライダーの上にあるテキストラベル“0”をクリックしてください。



PREDYN (EQ プリダイナミクス)

デフォルトでは、オーディオ信号はダイナミクス処理の後にEQにルーティングされます。PREDYNがアクティブな場合（緑のLEDが点灯している場合）、このルーティングは入れ替わり、EQがダイナミクスモジュールの前に配置されます。関連する情報は、このマニュアルで前述している“シグナルフロー”を参照してください。

注: P PREDYN は、EQ の DYN SC ボタンがアクティブなときには効果がありません。

DYN SC (ダイナミクスサイドチェイン)

DYN SCがアクティブなとき（緑のLEDが点灯しているとき）、EQモジュールから出力された信号はオーディオパスから取り除かれ、代わりに235Lと225Lのダイナミクスモジュールを制御するようにルーティングされます。関連する情報は、このガイドの序盤にある「信号の流れ」を参照してください。

注: API Vision Console Channel Strip Legacyでは、このボタンにはSCというラベルが付いています。

EQ タイプ

注: このコントロールは、API Vision Channel Strip Legacyでは使用できません。

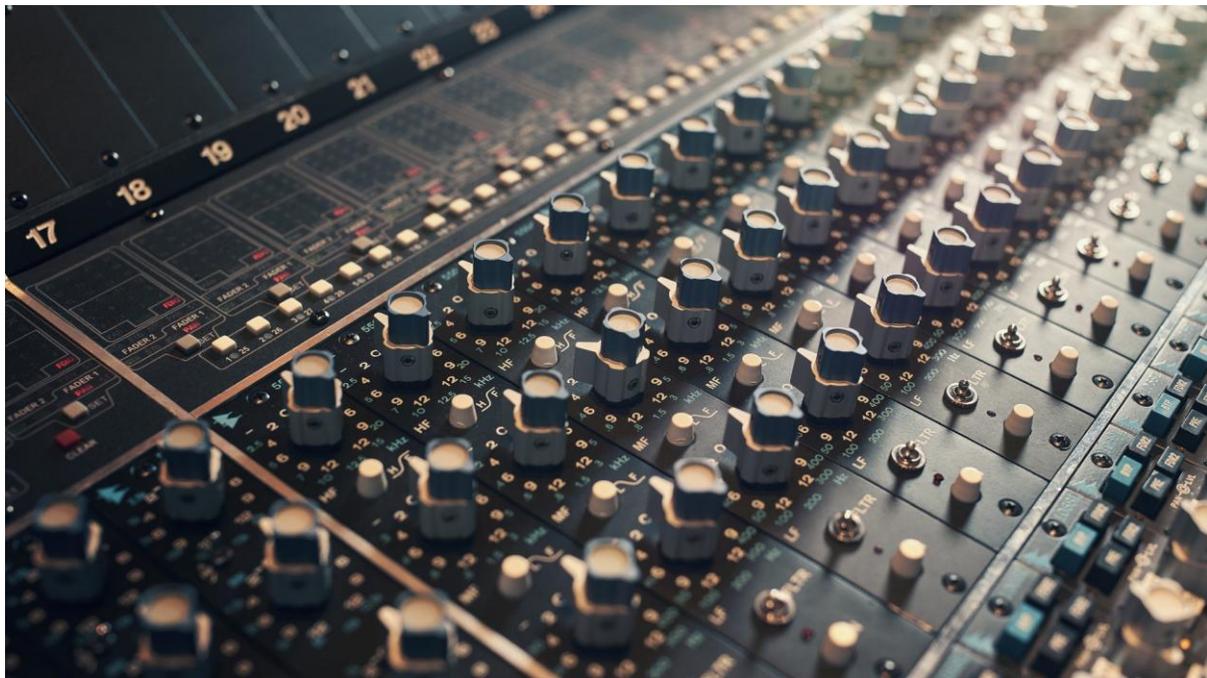
タイプボタンの緑の LED が点灯すると、560L EQモジュールがアクティブになります。TYPE ボタン、またはそのLEDをクリックすると、560L EQモジュールに切り替わります。

ヒント: このプラグインは、両方のEQモジュールの現在の設定を保存するので、両方のEQタイプを比較したり、クリエイティブな使い方ができます。

EQ オン

このボタンは、EQ モジュールをアクティブにします。ボタンの緑のインジケータが点灯すると、モジュールがアクティブになります。ON ボタンまたはその LED をクリックすると、設定が切り替わります。

注: このモジュールがオフの場合、UADのDSP負荷は減少します(UAD Meter & Control Panelアプリケーションで“DSP LoadLock”が有効になっていない場合)。



グローバルモジュール

アウトプットメーター

垂直方向のLEDラダー式メーターは、プラグインの出力における相対的な信号のピークレベルを表示します。

アウトプットフェーダー

注: このコントロールは、API Vision Channel Strip Legacyでは使用できません。

このコントロールは、オリジナルのAPIコンソールフェーダーのサウンドとリニアな動作を正確にモデリングしています。最大で+9dBのゲインが得られます。デフォルト値は0dBです。

ヒント: テキストラベル“0”をクリックすると、アウトプットを0dBの位置に戻すことができます。

なお、アウトプットバッファアンプはフェーダーよりも先に信号が流れるため、アウトプットフェーダーでは、モデリングされたアウトプットバッファアンプのクリッピング動作をコントロールすることはできません。

Unisonによるインタラクション

ゲインステージ・モードでこのパラメーターが選択されている場合、Apolloのハードウェアアンプ・ノブはアウトプットフェーダーの調整に使用することができます。

アウトプットノブ(レガシー)

このコントロールは、プラグインの出力に-24 dB ~ +12 dBのクリーンな色付けのゲインを与えます。初期値は0dBです。

ヒント: テキストラベル“0”をクリックすると、アウトプットを0dBの位置に戻すことができます。

Unisonによるインタラクション

ゲインステージ・モードでこのパラメーターが選択されている場合、Apolloのハードウェアアンプ・ノブは、出力ノブの調整に使用できます。

SC リンク(サイドチェインリンク)

このプラグインをステレオ信号に使用した場合、このボタンは225Lと235Lのダイナミクスモジュールの左右のチャンネルのサイドチェインをリンクさせ、両チャンネルが同じ量のコンプレッションが適用されるようになります。SC Link は、ボタンの緑のインジケーターが点灯しているときにアクティブになります。デフォルト値はオンです。

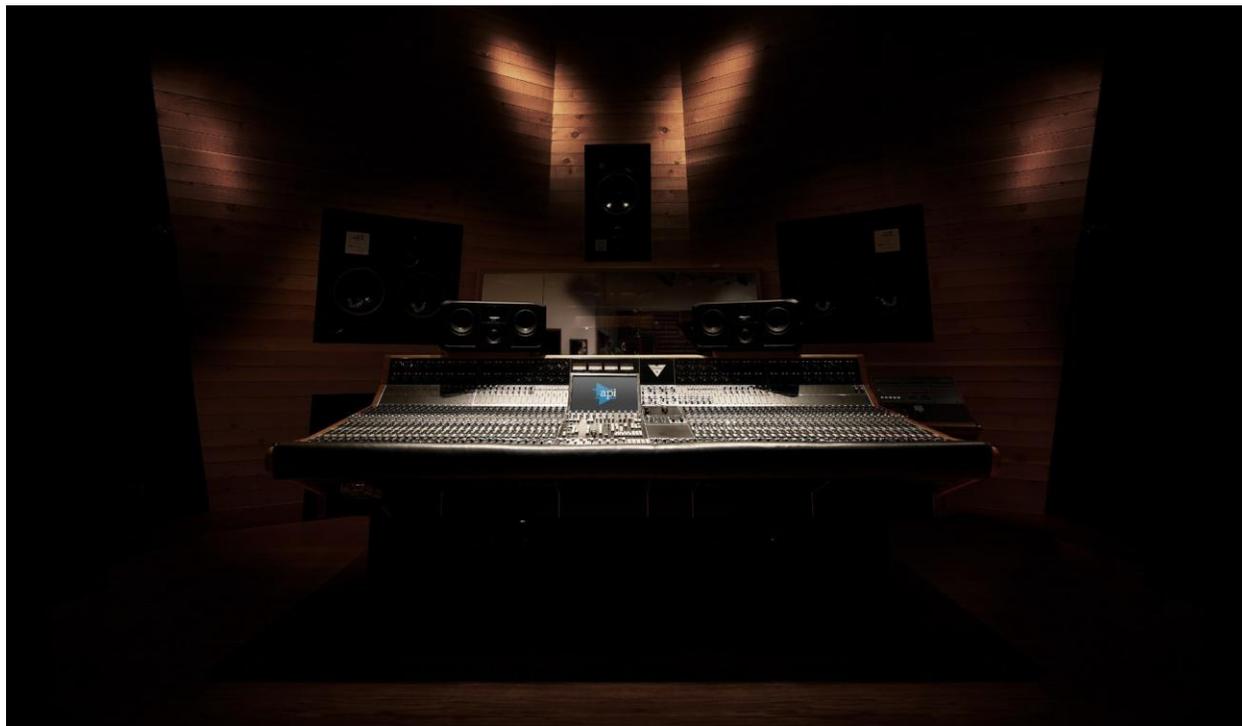


サイドチェインをリンクさせることで、片方のチャンネルだけに現れる信号が、出力のステレオイメージをずらすことを防ぎます。例えば、どちらかのチャンネルに大きなトランジェントが発生した場合、両方のチャンネルがコンプレッションされ、そのコンプレッション量は、両方のチャンネルに同時に現れるトランジェントのコンプレッション量と同様になります。

注: モノフォニック構成の場合、SC Linkボタンは使用できません。

パワー

1つ以上のLEDが点灯すると、プラグインがアオンになります。電源がオフの場合、すべてのLEDは消灯し、すべてのプラグイン処理は無効となり、UADのDSP使用量は減少します(UAD Meter & Control PanelアプリケーションでDSP LoadLockが有効になっている場合を除く)。



API Vision コンソール

API Vision Consoleへのすべての視覚的および聴覚的な参照、およびAPIのすべての商標の使用は、Automated Processes, Inc.の書面による許可を得て行われています。Paul Wolff、Larry Droppa、Todd Humora、Jeffrey Richards、Paul Wolffに謝意を表します。